

Volume 3  
ISSUE No. 8

April 2008



▶ SURVEY SHOWS DIFFERENT PERCEPTIONS TO SEA LEVEL RISE AMONG NATIONS ...2



▶ ICHARM SENDS RESEARCHERS TO NYUZEN FOR HIGH-WAVE DAMAGE ASSESSMENT ...3

▶ HOW IS THE MASTER'S COURSE GOING?.....4-5



▶ PWRI FOREIGN RESEARCHERS ENJOY A FLAVORFUL AND BEAUTIFUL SPRING.....6

▶ ICHARM WELCOMES NEW MEMBERS.....6

▶ CYCLONE SIDR INVESTIGATION IN BANGLADESH .....7

▶ INTERNATIONAL SEMINAR ON ROLE OF DAMS .....8

# ICHARM

INTERNATIONAL CENTRE FOR WATER HAZARD AND RISK MANAGAMNET  
under the auspices of UNESCO

## Newsletter



### センター長からのメッセージ

Message from the Director



ICHARM は去る 3 月 6 日に設立 2 周年を迎えました。また、3 月 22 日の「国連水の日」に併せて、ICHARM は過去の自然災害の被害者に深い哀悼の意を示すとともに、目的を同じくする全ての関連機関と協力して災害被害軽減のために水管理の向上のためにさらに貢献する所存です。

この 2 年間は ICHARM にとって困難ではあったが着実に成長した時期といえます。我々は 7 人の国際公募メンバーを含む 21 人の研究者など、合計 27 人の陣容となりました。ICHARM の 3 本柱は「研究」「研修」「情報ネットワーク」ですが、研究対象は洪水リスクから洪水ハザードマップ作成、気候変動の影響、氷河湖から津波マネジメント、対象地域としてはネパール・バングラデシュ・フィリピン・スリランカ・メコン川流域など多岐にわたります。人工衛星観測と高度な予測モデルを用いた早期洪水警報システムの開発は、ICHARM で現在進行中の研究活動の一つです。

また、研修活動では ICHARM は既にめざましい成果を上げています。10 カ国以上から 50 人以上の研修生が「洪水ハザードマップ作成」コースで研修を受けました。

ICHARM として昨年度から開始した「防災政策プログラム水災害リスクマネジメントコース」では、5 カ国から 10 人の学生を迎えることができ、大変幸せに思います。彼らは今年 9 月の修了に向けて懸命に研究を行っています。



「情報ネットワーク」に関しては、ICHARM は既に『第 1 回アジア太平洋水フォーラム』において重要な役割を果たし、ユネスコが作成する次回の『世界水発展報告書』でも重要な貢献を行っています。それに加え、様々なパートナーとの協力関係の構築や、国際洪水イニシアチブ(International Flood Initiative)の事務局としての活動は、より広範囲で効果的な情報ネットワーク活動を推進するために、ICHARM が現在優先的に取り組んでいるものです。

さて、ICHARM は 2006 年 3 月設立以降 3 回目の春を迎え、4 月 17 日に ICHARM 講堂で記念イベントを開催します。これは、「つくば科学週間」と同時に行われ、ICHARM の研究員が、災害・水・環境・気候などの幅広い話題に関して、特に高校生など若い世代に対して講演を行うとともに、意見交換を行う公開フォーラムです。このフォーラムは今後毎年 ICHARM の設立記念日の前後に計画したいと考えております。多くの高校生を始め一般の方の来訪をお待ちしています。

多くの希望と熱意を抱きながら、ICHARM は皆さんとともに水災害被害軽減のために 3 年目をスタートします。

水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)  
センター長 竹内 邦良

竹内邦良

## 海面上昇に対するヨーロッパと日本の認識の違い

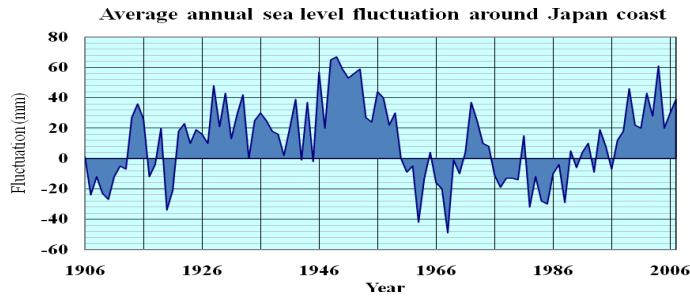
### Survey Shows Different Perceptions to Sea Level Rise among Nations

In some European countries, sea level rise was part of the agenda for planning tidal flood defense and coast management even before global warming began being highlighted.

国土交通省河川局は、治水関連気候変動適応策の基本となる新しい政策を議論するために、13人の学識経験者からなる小委員会を組織しました。この政策は一般からご意見を反映した後、今年の夏に公式に採択される予定です。ICHARMは小委員会に対し、技術的貢献を行っています。その一つは、日本政府が適応策を履行する際に、国民のコンセンサス形成に有益であると考えられる諸外国の適応策を分析することです。

河川局、国土技術政策総合研究所及びICHARMの共同チームは、現地担当者に対するインタビューにより、「テムズ川2100」などのヨーロッパにおける適応策の事例調査を行いました。

予想外の調査結果の一つとしては、ヨーロッパの各国は海面上昇に対して、日本と異なった認識をしているということでした。日本の気象庁は、気候変動報告の中で、複雑な潮汐流によって、日本近海では顕著な海面上昇は見られない(図参照)としています。他方ヨーロッパでは過去100年を通じて明確な海面上昇が見られるとのこと。ヨーロッパでは、地球温暖化

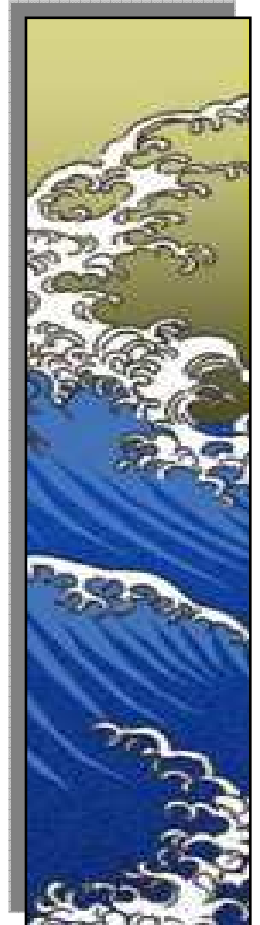


Source data for the graph at:

[WWW.DATA.KISHOU.GO.JP/KAIYOU/SHINDANA\\_1/SL\\_TREND/SL\\_TREND.HTML](http://WWW.DATA.KISHOU.GO.JP/KAIYOU/SHINDANA_1/SL_TREND/SL_TREND.HTML)

が深刻な問題として取り上げられる前から、海面上昇は高潮災害計画と海岸管理計画において常に考慮されています。

別の興味深い調査結果としては“Making Space for Water”に基づいた計画的撤退策が一般的に専門家には高く評価されているものの、常に一般に受け入れられている訳ではないというものです。この結果は、可能な計画的撤退策が日本の一般人に議論される際に、政策決定過程に影響を与えられたいと思います。



### THE HIGH-LEVEL PANEL ON WATER DISASTERS, UNSGAB

2<sup>nd</sup> meeting

28-29 January, 2008

Seoul, S. Korea



国連事務総長諮問委員会の水災害に関する第二回ハイレベルパネルが、韓国水フォーラム代表 Han Seoun Soo 氏を議長として、ソウルの Shilla Hotel で1月28-29日に開催されました。

パネルは、議長の温かい歓迎の挨拶で始まり、Lee Myung-bak 大統領により首相に任命されたことが、まさにその日の朝に報告されました。Han氏は、自らの代わりとして UN/ISDR 代表 Salvano Briceno 氏に議長を要請し、Briceno氏は快諾して1日半の会議は始まりました。Han氏にはその日の夜に歓迎会も開催して頂きましたが、それは日程中最も素晴らしい体験でした。パネルでは多くの議題を討論し、最終提言に含めるべき項目のリストが作成されました。項目には、ODAのプロジェクトを含め、いかなるプロジェクトを進める上でも、災害リスク評価を義務化することの提案が含まれています。

次の会合は、マルセイユで6月9-10日に予定されています。詳細な情報は、日本水フォーラム vol.41 をご覧ください。

at: <http://www.waterforum.jp/eng/newsletter.html>



## 富山県入善町の高波被害調査報告

### ICHARM Sends Researchers to Nyuzen for High-Wave Damage Assessment

“Even concrete blocks covering the gentle slope revetment and a steel inland lock were blown away and destroyed, which clearly indicated how strong the waves’ impact was.”



平成 20 年 2 月 23 日から 24 日にかけて冬型の気圧配置が強まり、特に富山県入善町の一部では高波により局所的かつ甚大な被害が発生した。町全体では全壊が1棟、半壊2棟、一部損壊4棟、床上浸水53棟、床下浸水83棟などの被害が発生した。ICHARM は、2 月 29 日に現地へ調査チームを派遣し、被害状況調査と現地行政機関へのヒアリングを実施した。以下にその概要を記す。

調査箇所の中でも、特に入善町芦崎地先では被害が大きく、緩傾斜護岸のブロックや鉄製の門扉が波により破壊され吹き飛ばされ、衝撃力の強さを物語っていた。

次に、避難の状況について、国土交通省黒部河川事務所や入善町役場にヒアリングを行った結果、次の事項が明らかになった。

- 一般的に洪水時には、水防法に基づいて、川を管轄する機関が国の場合、水位情報を市町村に提供し、それをもとに首長が避難勧告・指示を発令することになっている。しかし高波の場合、警戒避難のための波高などの情報は、国土交通省 HP では一般に閲覧可能だが、特に市町村に直接その情報を提供していない。
- 避難勧告の前に、気象庁から波浪警報は既に出されていたが、町は高波などの海岸災害に対して定量的な判断基準を持っていない。そのため、今回の避難勧告・指示も実際の被害状況により判断して発令されていた。
- 避難勧告・指示は、町の施設に加えて地区独自に整備されている防災無線や広報車を通じて伝えられた。しかしながら、全員が避難したわけではなかった。
- 要援護者の避難については、事前に支援者をピックアップして非常時に要援護者を支援する仕組みをパイロット的に取り組んでいた結果、うまく機能した。

今回の調査により、以下のことが明らかになった。

- ✓ 国の機関と県、市町村の防災担当との情報共有・連携の強化が必要である。
- ✓ 今回の高波による死者 1 名は、避難勧告発令後、海の様子を見に行くといってお外出して行方不明になり、倒壊した小屋の付近で発見されている。今回のような高波災害は約 40 年前(1970 年 1 月 31 日)にも発生している。津波・高波などまれにしか起こらない海岸災害に対して、住民の意識をいかに向上させるかが課題である。
- ✓ 河川における洪水災害と同じように、津波・高波などの海岸災害に対しても定量的な数値に基づいた避難情報のタイミング、判断基準を整備する必要がある。
- ✓ 集落の近くには松林があり、松林の育っている地盤は周囲より 1~2m 高くなっており、高波・高潮・津波等の対策にも有効と考えられる。



集落近くの松林



# 修士コース「防災政策プログラム 水災害リスクマネジメントコース」 活動報告

(ICHARM Newsletter No.7 も参照)

*How is the Master's course going? (See also ICHARM Newsletter No.7)*

ICHARM は、(独)国際協力機構(JICA)と政策研究大学院大学(GRIPS)と連携して、修士コース「防災政策プログラム 水災害リスクマネジメントコース」を実施しています。学生は今、それぞれの目的に向かって一生懸命取り組んでいます。



## 神波 泰夫 ((株)パシフィックコンサルタンツ)

私にとってこのコースに参加することは、防災政策に関する知識を学べるだけでなく、海外の学生や ICHARM の研究者と意見や情報を交換できる素晴らしい機会です。つくばで学習しているものの、世界各地からの学生に囲まれて、なんだか海外で勉強しているかのような雰囲気を感じています。

防災政策の修士号を無事に取得し、得られた知識を様々な機会でも実務に生かすことが出来ればと思っています。



## Md. Aminul Islam (バングラデシュ 水開発局)

私は昨年 9 月 30 日に来日し、1 年間のこの修士コースに参加しています。私にとって海外で勉強し、知識や経験を得ることは素晴らしい機会であり、またこのコースの一員として誇りに思います。ICHARM のスタッフの皆さんには私の研究に親切な協力を頂き、感謝しています。

また、JICA が主催する旅行やイベントのおかげで、日本の生活も楽しんでいき、筑波国際センター(TBIC)の快適な環境でよく学習しています。



## Ye Lili (中国 水資源局水文部)

このコースに参加できたことは、私にとって非常に嬉しく思っています。ご存じのように、中国は毎年水関連災害で苦しんでおり、持続可能な対策は我々にとって非常に重要です。私はそのような対策に関する実務的かつ技術的な知識を我々に与えてくれる JICA、土木研究所、ICHARM に非常に感謝しています。

日本はほとんど全ての種類の水関連災害で被害を受けており、日本人はこの分野でより多くの知識や経験を有しています。ここで知識を得ることは、私の知識の向上に非常に役立ちます。その知識を応用すれば、私の実業務において水関連災害の被害軽減対策を行うのに非常に役立つと思います。

最後になりましたが、私たちのサポートに多大な努力を頂いている ICHARM と JICA の全てのメンバーに心から感謝の意を表します。



何これ？



“さざれ石”

出雲大社にて



松江堀川遊覧船にて



出雲 & 広島地方現地見学(3月12-14日)





### Dai Minglong (中国 水資源局水文部)

中国からの参加者として、隣国日本で勉強や生活できる経験ができ、とても嬉しいです。ICHARM はとても良いコースを提供してくれています。多くの著名な教授、学者、専門家は興味深い講義を行い、私の心を広げ多くの新しい知識を与えてくれました。

来日前、私は設計者として働いており、時々水文公式を必要としていました。私の知識が足りなかったために、私はただ計算過程を追っているだけで、その理由を深く追求しませんでした。特に、石川先生(東工大)からそれらの公式がいかに作られてきたかを学びました。また、ジャヤ先生(ICHARM)からは、新しい公式や技術、多くの英語での水文用語を習得しました。福岡先生(中央大)からは、日本が河川で行ってきた開発の基礎的な概念を学びました。それらに加え、砂防事業やスーパー堤防や遊水池、環境科学、政策立案、コミュニティ能力向上、洪水ハザードマップなど新しい分野について学ぶことができました。それら全ては、帰国後私を大いに助けてくれることでしょう。

筑波国際センター(TBIC)は良い生活環境で快適な場所です。また、異文化交流活動に参加したり、小学校を訪問したりバスツアーに参加したりしています。これらは私の人生の中で大いに記念となると思います。



### Khanindra Barman (インド アッサム州 水資源局)

このコースに参加できたことは素晴らしい機会です。また、1年目のコースの参加者ということで誇りにも思います。コースのプログラムは GRIPS や ICHARM、JICA によってとてもよく構成されており、我々のやる気を引き出してくれています。教授や研究者、あるいは海外からの専門家はとても経験豊富で我々を助けてくれます。日本での滞在は、世界各地からの多くの友人と触れ合えることが出来、とてもおもしろいです。

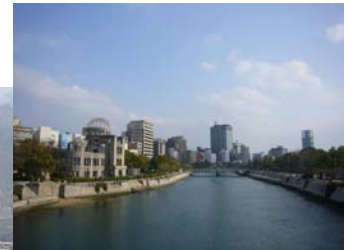
このコースは様々な災害やその対策を学ぶための機会を与えてくれています。このコースに参加することで、私の洪水マネジメントの仕事において新しい知識と能力を増やすことが出来るでしょう。私はこのような素晴らしい機会を与えてくれた GRIPS や ICHARM、JICA と日本政府にいつも感謝しています。



斐伊川の計画について議論中



温井ダムにて



## 高橋裕 東大名誉教授による「民衆のために生きた土木技術者たち」講演会

*Professor Emeritus Takahashi Lectures on "Men who Worked for Mankind"*



2008年1月22日、ICHARMは東京大学名誉教授・国連大学顧問の高橋裕先生を招いて、映画“Men who worked for mankind”(民衆のために生きた土木技術者たち)の上映会及び講演会を開催しました。

日本語での講演は既に50回以上開催されていますが、英語での講演は今回が初めてであり、貴重な機会となりました。

まず、前半において映画の上映が行われ、青山士(1878-1963)、宮本武之輔(1892-1941)および八田與一(1886-1942)の3人の土木技術者の功績が紹介されました。

その後、高橋先生の講演が行われ、3人の先人達の功績を称えると同時に、聴衆でもある現代の土木技術者・研究者に対しても、土木事業に誇りを失わないよう激励の言葉がありました。





## 桜満開の下で『観桜茶話会』を開催

PWRI foreign researchers enjoy a flavorful and beautiful spring

4月4日、坂本理事長と竹内センター長が、土木研究所内の外国人研究者と修士コースの学生を『観桜茶話会』に招待し、日本の伝統文化であるお花見を楽しみました。



## ICHARM 新研究員の紹介

ICHARM Welcomes New Members



**水文チーム  
専門研究員  
Pham Thanh HAI**

Pham Thanh HAI 博士はベトナム・ハノイ市出身で、2月から水文チームの専門研究員として赴任しました。今後主に全球規模の洪水・浸水解析、各種シミュレーション、世界洪水リスクマップの作成などの分野に従事します。

HAI 専門研究員は1992年にベトナム水資源大学で工学士を取得後、ベトナム農業・地方開発省国立水理工学調査計画研究所に勤務。その後来日し、岐阜大学で修士号(1999)、さらに博士号(2002)を取得しました。大学では、森林がもつ多機能役割および流域の洪水防御能力の予測と評価、洪水時の河岸浸食過程および流路変化などを中心に研究しました。2003年6月から2006年3月には、日本の農業工学研究所(現 農村工学研究所)にポスドク研究員として勤務し、低地浸水解析用2次元有限要素法シミュレーションの開発を行い、トンレサップ湖とメコンデルタ上流域に適用しました。

その後ベトナムに帰国、ベトナム農業・地方開発省ベトナム水資源大学水文水資源学部河川海岸工学研究所に講師として勤務しました。



**水文チーム  
研究員  
菅野 裕也**

菅野研究員は4月から水文チームの研究スタッフの一員として加わりました。

現在携わっている研究テーマは「新しいセンサ技術を活用した流量観測データの信頼性向上に関する研究」です。

菅野研究員は日本工学院北海道専門学校土木工学科を卒業後、1999年4月から北海道開発局石狩川開発建設部に配属になりました。石狩川開発建設部では、石狩川の河川改修工事、豊平川上流の砂防工事、空知川上流に位置する金山ダムの洪水調節・施設管理等を担当し、その後、石狩川水系の河川整備計画における低水管理計画の検討に携わってきました。計9年間の石狩川開発建設部勤務を経て、ICHARMに加わりました。



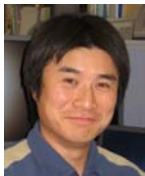
**防災チーム  
総括主任研究員  
野呂 智之**

野呂総括主任研究員は4月から防災チームに加わりました。

野呂総括主任研究員は、これまで鹿児島・新潟・徳島など土砂災害対策の最前線にある国土交通省・県の出先事務所で調査・計画づくりに携わってきました。

2001年から内閣府で中央防災会議を担当する事務局の勤務を経た後、2006年に国土交通省国土技術政策総合研究所砂防研究室に移り、警戒避難対策に用いる雨量指標について検討を重ねていました。

ICHARMに異動となる直前の2年間、JICA 専門家としてインドネシアのジョグジャカルタ(Yogyakarta)に派遣され、インドネシア政府が進める土砂災害対策の支援をしていました。



**水文チーム  
専門研究員  
馬籠 純**

馬籠専門研究員は2月から水文チームの研究員として加わりました。

現在携わっているテーマは、洪水災害リスクのリアルタイム全球監視・予測方法の開発等です。

馬籠専門研究員は、2004年山梨大学で博士号(工学・水文学/水資源工学)取得後、同大学で21COE Researcherとしてアジア・モンスーン地域における総合流域総合水管理研究教育に携わりました。主な研究テーマは、各種水文情報データベースの構築(特に全球貯水池・湖沼GISデータベース)、衛星リモートセンシングによる地表水の観測技術の開発、流域水文モデルの開発による流域水管理への応用、インターネットおよび人的交流に基づく水文研究教育等です。



**水文チーム  
交流研究員  
白石 芳樹**

白石交流研究員は4月から水文チームの交流研究員として加わりました。

現在携わっている研究テーマは「レーダ雨量計情報を活用した洪水危険度評価技術に関する研究」です。

白石交流研究員は広島大学大学院工学研究科を卒業後、2001年4月に株式会社建設技術研究所(CTI)に入社しました。配属先は九州支社であり、主に九州の河川における河川計画、河川整備基本方針、浸水想定区域図の作成などの業務を担当するほか、緑川の河道内橋脚の影響解析や沖縄北部ダムでの洪水予測システムの構築、佐賀平野の危機管理計画の策定、五ヶ瀬川のアユの産卵適性環境の検討などに携わってきました。





現地調査中の団員（地元住民とともに）

## サイクロン・シドル 現地調査

### Cyclone Sidr Investigation in Bangladesh

大学関係者や各組織の8名により構成された本調査は、1月17-24日にかけて実施されました。ICHARMからは三宅上席研究員が参加しました。が調査団はまずサイクロンにより多大な被害を受けたバングラデシュ国南西部に位置する Baleswar 川沿いの町や村を訪れ、(1)

サイクロンに起因する高潮は河川の奥深く(100km以上)に侵入、堤防を越えし人家や農地に多大な損害を与えていること、(2)サイクロン警報は「サイクロン準備プログラム」のボランティアの活動もあり、住民の隅々まで行きわたっていたが警報発令の正確さやタイミング等に課題があること、(3)堤防の高さ・強度の改善、サイクロンシェルターの増設等の構造的対策が住民から切に求められていること、等の有益な情報を得ることができました。

その後調査団は首都ダッカにある関係省庁、大学や研究機関を訪問し、有益な情報収集と意見交換を行いました。本調査の速報会は2月13日に土木学会本部にて実施されました。また今後についての提案を含む本調査のレポートを現在作成中であり、3月中にも代表者がダッカを訪れ発表する予定としています。

(サイクロン・シドル調査については ICHARM Newsletter No.7 における田中上席の報告もご覧ください)

## NARBO GENERAL MEETING

2月20日から22日にかけてインドネシア スラカルタ市(ソロ市)において、第3回アジア河川流域機関ネットワーク(NARBO)の総会およびワークショップが開催され、14カ国61機関から約100名が参加しました。ICHARMから寺川グループ長が参加しました。

2日目のワークショップで、設立後約2年を経過した ICHARM の活動概要を紹介するとともに、3日目の総会において ICHARM は、水関連災害管理にかかるアジア太平洋地域のハブ機関として、統合的水管理の一環としての水災害リスク管理を推進する観点から NARBO 活動に参画を希望する旨表明しました。総会では、ICHARM を含む9機関が新たにメンバーとして承認され、合計65機関となりました。ICHARM は地域間知識パートナー(Interregional Knowledge Partner)として、今後ワークショップへの講師派遣や研修生の受け入れ等を通じて NARBO の発展に貢献してまいります。



## Community-based Flood Hazard Mapping Project in Nepal

3月18日から24日にかけて、ネパールの West-Rapti 川において、ネパール開発研究機関(Nepal Development Research Institute)と共同現地調査を行いました。ICHARMからは、オスティ研究員、時岡研究員及び猪股研究員が参加しました。

主な目的は、流域における最近の洪水災害状況の調査と、氾濫解析モデルとリモートセンシング技術を通じて得られた結果を実証することです。この訪問では次回の研究フェイズの確認も行いました。この West-Rapti 川において進行中の研究は、ICHARM が進めるローカルスタディの一つであり、第一段階の研究報告は準備中です。



## SATELLITE-BASED PRECIPITATION GSMaP

ICHARM では、雨量情報が不足している途上国における早期警報システムへの GSMaP の適用性を宇宙航空開発機構(JAXA)との共同研究で進めてきました。GSMaP(Global Satellite Mapping of Precipitation)とは、複数の人工衛星から観測された全球の雨量データです。

その成果報告会が2月13日、14日に JAXA 筑波宇宙センターで行われました。本成果報告会では、GSMaP の雨量データを計算するための一つ一つのプロセスについて報告が行われ、今後の ICHARM での GSMaP 利用検討の参考になる情報が得られました。

参考 HP:

<http://www.radar.aero.osakafu-u.ac.jp/~gsmmap/>

## 第5回世界水フォーラム 第二回調整会議 2nd Coordination Meeting for 5th World Water Forum

本会合は2月7-8の両日、トルコ・イスタンブール市で開催されました。第5回世界水フォーラムに向けての重要な節目となる本会合には国土交通省や日本水フォーラム事務局からの参加者とともに、ICHARMから三宅上席研究員が参加しました。会議は世界の200以上の組織から、約400名の参加者を集めた盛大なものとなりました。

来年3月に当地で開催される本フォーラムに向けて、予め決定された6つのテーマとそれに関連する22のトピックについて紹介があり、それぞれのテーマに分かれての議論が2日にわたり行われました。三宅上席は「地球規模の変化と危機管理」に位置付けられる「災害管理」トピックの議長を務めました。2日間にわたる議論を通じて(1)論点の明確化、(2)トピックを体現する参加者への質問事項の明確化、(3)考えられる分科会のアイデア、(4)各分科会に関係する組織等につきある程度案が固まりました。他の21のトピックについても同様に充実した結果が得られたことにつき閉会式で報告を受けました。

来年のフォーラムで組織されるセッションの詳細なアイデアや出されるべき成果等につき、本年6月と言われる次回の調整会合にて決定されることが期待されています。

## ダムの役割を考える国際セミナーの開催

International Seminar on Role of Dams

ダムによって国民生活や地域経済にもたらされる治水・利水の効用は大変大きなものです。しかしながら一方では、ダム事業に伴う環境面での影響や社会的インパクトなど負の側面が顕在化する事例も見られております。我が国では、特に近年、国民の環境意識の高まりや全国的なインフラ整備の進展、また財政面での問題等を背景として、このような負の側面が強調される余り、ダム事業の意義そのものに対する一般的理解が十分に得られているとは言えない状況となっております。

このため、内外のダムが果たしている役割と効果・影響等の分析を十分に踏まえた意見交換・討議により、専門家としての観点からダムの果たしている役割についての客観的な分析評価を行い、その結果の発信を通じて、国民に両者のバランスのとれた理解を促進することを目的として、「**ダムの役割を考える国際セミナー**」を開催します。

日時：平成 20 年 4 月 23 日(水) 13:30-18:00

場所：弘済会館（東京都千代田区麹町 5-1）

主催：（財）ダム技術センター

共催：（独）土木研究所 ICHARM、（財）ダム水源地環境整備センター



13:00-13:30	受付
13:30-13:40	開会趣旨説明、次第及び参加者紹介
13:40-14:10	基調講演:「気候変化適応時代のダム」 竹内邦良 (独)土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長
14:10-14:40	日本におけるダムの役割 岡野真久 (社)日本大ダム会議 ダムの役割調査分科会長(平成 15~17 年)
14:40-16:15	諸外国(アジア)におけるダムの役割 (ICHARM 専門研究員による事例発表) Dr. Chavoshian Seyed Ali (イラン) Dr. Dinar Catur Istiyanto (インドネシア) Dr. Rajapakse Hemanthe (スリランカ) Dr. Pham Thanh Hai (ベトナム)
16:15-16:30	休憩
16:30-17:50	パネルディスカッション テーマ:「ダムの役割を考える」 コーディネイター 竹内 邦良(ICHARM センター長) パネラー 尾崎 勝(東京都水道局技監) 田中 忠次(東京大学大学院教授) 玉井 信行(金沢学院大学大学院教授) 橋本 徳昭(関西電力常務執行役員) 水戸部 浩子(荘内日報社論説委員)
17:50-18:00	閉会

※参加ご希望の方は、（財）ダム技術センターのホームページからご登録ください。

<http://www.jdec.or.jp/JDEC.htm>

### ABOUT US

The International Centre for Water Hazard and Risk Management (ICHARM) is under the auspices of UNESCO in Tsukuba, Japan. The mission of ICHARM is to function as the Centre of Excellence to provide and assist implementation of best practicable strategies to localities, nations, regions, and the globe to manage the risk of water related disasters. ICHARM Newsletter is quarterly and non-commercial publication to develop information networking on water-related disaster. It is distributed via e-mail. They can also be downloaded from our website.

メーリングリストへ登録ご希望の方/今後の配信を希望されない方は下記アドレスまでご一報ください。

ご意見・ご感想もお待ちしております。

〒305-8516 つくば市南原 1-6

(独)土木研究所 アイチャーム

Tel: 029-879-6809

Fax: 029-879-6709

Email: [icharm@pwri.go.jp](mailto:icharm@pwri.go.jp)

URL: <http://www.icharm.pwri.go.jp>



Copyright (c) 2008 Public Works Research Institute

### Coming Events:

- ✓ ICHARM 設立記念公開イベント (4 月 17 日)
- ✓ 2<sup>nd</sup> meeting of the Advisory, Management Committee of International Flood Initiative prior to the 4<sup>th</sup> International Symposium on Flood Defence  
(カナダ・トロント 5 月 5-8 日)
- ✓ International Conference on Water Related Disaster Reduction  
(タジキスタン 6 月 27-28 日)